

新潟県新発田市の水田にオオバタネツケバナの分布

渡 辺 朝 一

オオバタネツケバナ *Cardamine scutata* は、アブラナ科に属する草本植物で、新潟県植物分布図集にはヤマタネツケバナ、コシジタネツケバナ *C. scutata* var. *koshiensis* として記録されている。両種とも、県内における確認地点はそれほど多くない。

筆者は、新発田市西部において、従来知られているのとは異なる環境で、本種の自生を確認したので報告する。本種の自生を確認したのは、新発田市飯島新田、下郷屋付近の水田の刈り跡、およびごく丈の低い草生えている休耕田である。

水田の刈り跡は、秋耕がされていない場合、ほとんど植生が認められない場所もある。しかし、被度にバラツキはあるものの、スズメノテッポウ *Alopecurus aequalis*、スズメノカタビラ *Poa annua*、タネツケバナ *C. flexuosa* など、イネ *Oryza sativa* と生活環を競合しない越年生の草本がみられる場所も多い。

これらの越年生の草本は、越後平野で越冬するコハクチョウ *Cygnus columbianus*、オオヒシクイ *Anser fabalis middendorffii* など、ガン・ハクチョウ類の食物となっている。コハクチョウに採食されたタネツケバナの写真を東北大学理学部の石栗義雄氏に照会したところ、オオバタネツケバナの写真もあるとの指摘を受けた。

この写真の植物は、タネツケバナより葉が大きく丸みを帯びていることからオオバタネツケバナであると考えられた。撮影日は1994年3月6日である。

しかし、その後、実際にオオバタネツケバナの自生を確認する機会がなく、発表も遅れていた。

ようやく、2007年3月3日に、指摘を受けた写真の撮影地である新発田市飯島新田、下郷屋付近を再訪し、調査した。その結果、刈田の水田面と、植生がわずかしかなない休耕田に、それぞれオオバタネツケバナの自生を確認することができた。

近縁のタネツケバナは、稲刈り後の水田で多く見られ、これらは栽培イネと競合しない越年生の生活環を持つ。これに対して、本種は多年生であり、沢筋などに見られるとされる。しかし、今回水田の刈り跡で見られたことで、これらのオオバタネツケバナは、タネツケバナ同様の越年生の生活環を持っている可能性も考えられる。

(* 〒310-0032 水戸市元山町 2-2-33-202)



写真1 1994年撮影 (現地)



写真2 2007年3月撮影 (現地)



写真3 2007年4月撮影 (栽培)



写真4 2007年4月撮影 (栽培)